# 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目名(英) | 基礎学力講座・国語(Basic Aptitude Course: Japanese) | | | 授業コード | A031617 |
| 担当教員名 | 山岸 治男 | | | 科目ナンバリングコード | A00101 |
| 配当学年 | 1 | 開講期 | 前期 | | |
| 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 履修上の注意または履修条件 | これは選択科目ですが、入学時の日本語プレースメントテストで受講対象と判定された学生は必ず履修して下さい。 | | | | |
| 受講心得 | 小型の国語辞典または電子辞書を毎回持参することをすすめます。課題を行うために図書館の書物を活用してください。ノートも用意したほうがよいでしょう。授業中に教科書の練習課題を解いてもらいますので、教科書を持参するのを忘れないこと。 | | | | |
| 教科書 | ①日本語検定委員会(編)『日本語検定3級公式練習問題集』(東京書籍)〔一般クラス〕<br>日本語検定委員会(編)『日本語検定4級公式練習問題集』(東京書籍)〔導入クラス〕<br>②日本語検定委員会(編)『ステップアップ日本語講座　中級』(東京書籍)〔一般クラス・導入クラス〕<br>＊工学部は①と②、経営経済学部は②のみ。 | | | | |
| 参考文献及び指定図書 | 『三省堂国語辞典　第七版』(三省堂)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック　第三版』(三省堂)、小学館辞書編集部(編)『日本語便利辞典』(小学館)、金田一春彦(監修)『手紙の書き方実例辞典』(学習研究社)、『国語力アップ400問』(NHK出版[生活人新書067])、『国語力もっとアップ400問』(NHK出版[生活人新書105])、加納善光『漢字の常識・非常識』(講談社現代新書954)、荒川洋平『日本語という外国語』(講談社現代新書2013)、国広哲弥『新編　日本語誤用・慣用小辞典』(講談社現代新書2033)、川辺秀夫『22歳からの国語力』(講談社現代新書2035)、池上彰『日本語の「大疑問」』(講談社＋α 新書6－1　C)、秋月高太郎『ありえない日本語』(ちくま新書524)、金武伸弥『王道日本語ドリル』(集英社新書0428E)、佐竹秀雄『日本語教室Q＆A』(角川ソフィア文庫)、清水義範『日本語がもっと面白くなるパズルの本』(光文社文庫)、樋口裕一『本当に使える！日本語練習ノート』(PHP新書622)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)、高橋こうじ『クイズで楽しむ日本語のふしぎ』(新水社)、北原保雄『日本語どっち？』(金の星社)、タカハシマコト『その日本語、お粗末ですよ！』(宝島新書)、北原保雄『勘違いの日本語、伝わらない日本語』(宝島新書)、井上明美『知らずにまちがえている敬語』(祥伝社)、野内良三『大人の日本語養成講座』(大修館書店)。 | | | | |
| 関連科目 | 社会参画入門、社会参画実習1、文章表現基礎講座、英語1・2、情報リテラシー1・2 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 基礎的な日本語力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における日本語教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人が持つべき一般常識を養う側面をも有します。1年次前期の「基礎学力講座・国語」は大学での勉学に必要な最低限の日本語力の養成を図ることを目的としますが、それは同時にいずれ就職活動を行うに際して必要となるさまざまな種類の日本語表現の基礎となるものです。また、本科目は1年次後期の「文章表現基礎講座」(必修)への前段階としても有用です。 |
| 授業の概要 | クオーター制で、週に2回の授業があります。第1クオーターの第3回はこの科目のオリエンテーション。第4回から第15回まで2冊の教科書を並行して学んで行きます。毎回、課題演習があります。第16回に授業内容についての判定試験を行います。それに合格しなかった人には続けて第2クオーター(第17回～第31回)を履修してもらいます。授業内容は第1クオーターの分に敬語が追加され、判定試験は第32回に行われます。 |

| ○授業計画 | |
|---|---|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第 1 週 ：<br>第1回・第2回：フレッシュマンセミナー・スタートアップ。 | |
| 第 2 週 ：<br>第3回：オリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方などについて説明し、成績評価の方法にも触れます。<br>第4回：文法(1) | 第3回：復習：伝達事項の再確認。<br>予習：教科書の該当箇所。 |
| 第 3 週 ： | |

| | |
|---|---|
| 第5回:文法(2)<br>第6回:語彙(1) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第 4 週 :**<br>第7回:語彙(2)<br>第8回:言葉の意味(1) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第 5 週 :**<br>第9回:言葉の意味(2)<br>第10回:表記(1) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第 6 週 :**<br>第11回:表記(2)<br>第12回:漢字(1) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第 7 週 :**<br>第13回:漢字(2)<br>第14回:漢字(3) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第 8 週 :**<br>第15回:総合問題<br>第16回:第1クオーターの判定試験 | 予習:教科書の既習箇所の内容の再確認。 |
| **第 9 週 :**<br>第17回:敬語(1)<br>第18回:敬語(2) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第10週 :**<br>第19回:文法(1)<br>第20回:文法(2) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第11週 :**<br>第21回:語彙(1)<br>第22回:語彙(2) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第12週 :**<br>第23回:言葉の意味(1)<br>第24回:言葉の意味(2) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第13週 :**<br>第25回:表記(1)<br>第26回:表記(2) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第14週 :**<br>第27回:漢字(1)<br>第28回:漢字(2) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第15週 :**<br>第29回:漢字(3)<br>第30回:総合問題(1) | 予習:教科書の該当箇所。 |
| **第16週 :**<br>第31回:総合問題(2)<br>第32回:第2クオーターの判定試験 | 予習・教科書の既習箇所の内容の再確認。 |

| | | |
|---|---|---|
| **授業の運営方法** | (1)授業の形式 | 「演習等形式」 |
| | (2)複数担当の場合の方式 | 「複数クラス方式」 |
| | (3)アクティブ・ラーニング | 「アクティブ・ラーニング科目」 |
| **地域志向科目** | 該当しない | |

| | |
|---|---|
| 備考 | この科目の単位は卒業要件には算入されませんが、「基礎学力講座」の合格認定が工学部では「卒業研究」の、経営経済学部では「ゼミナールⅣ」の着手条件となります。ただし、外国人留学生にはこれは適用されません。また、この科目の単位は半期に履修登録できる単位数（上限24）に含まれません（ただし、平成26年度以前の入学生の場合は含まれます）。 |

| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 | |
|---|---|
| 【関心・意欲・態度】 | 常に日本語に積極的な関心を持ち続け、読解力や作文力の修養を志すこと。 |
| 【知識・理解】 | 新聞・雑誌の記事に現れる程度の漢字（熟語を含む）が読め、その意味がわかること。 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | 誰が読んでもわかるような明快で論理的な文章が書ける基礎を身につけること。 |
| 【思考・判断・創造】 | 日本語の持つ性格や特徴が的確に把握できること。 |

| ○成績評価基準（合計100点） | | | 合計欄 | 100点 |
|---|---|---|---|---|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等（テスト） | レポート・作品等（提出物） | 発表・その他（無形成果） | |
| 【関心・意欲・態度】<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | 10点 | 15点 | |
| 【知識・理解】<br>※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。 | 50点 | 15点 | | |
| 【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】<br>※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | 5点 | | | |
| 【思考・判断・創造】<br>※「考え抜く力」を含む。 | 5点 | | | |

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 評価の実施方法と達成水準の目安 |
| レポート・作品等（提出物） | 提出された課題を評価します。 |
| 発表・その他（無形成果） | 授業に参加した場合、1回につき1点。 |